

kensetsunews.com

きょうの記事 有料記事検索 連載・資料 出版案内 工事の動き 各種申込 リンク集 携帯端末用

きょうの記事

2008年10月10日付の1面トップの記事

■主要記事全文

- ・[主要記事1](#)
- ・[主要記事2](#)
- ・[主要記事3](#)
- ・[1面トップの記事](#)

■[人事異動・訃報](#)

■見出一覧

- ・[行政コーナー](#)
- ・[企業・団体コーナー](#)
- ・[特集・コラムコーナー](#)
- ・[全国の工事コーナー](#)

■[コンペ&プロポーザルダイジェスト](#)

■[最近1カ月のダイジェスト](#)

◆地方建設業界、ひとまず安堵/国交省の競争資格審査見直し

国土交通省が7日、2009・10年度の競争資格審査で、08・09年度と異なる等級になる可能性がある企業が従来等級を選択できる対応を正式に公表したことに、地方建設業界から安堵(ど)感が広がっている。技術評価点数(主観点数)の算定式を見直したことで例えば、これまでC等級だった企業が、B等級にランクアップするなど、「(企業自らが)望まない格付け変更」になるケースも想定されていたことが理由だ。

主観点数に地方公共団体の施工実績を新たに加えるほか、工事規模にかかわらず1件の工事に対する技術力を評価することを目的にした技術難易度や係数の見直しは、ことし3月に国交省の「直轄事業の建設生産システムにおける発注者責任に関する懇談会」の部会で素案が提示されていた。

また主観点数見直しに伴う経過措置として、09・10年度の資格審査に限り、等級変更企業が希望した場合、従来等級にとどまれる考えを示していた。

地方建設業界が望まないランクアップに強い関心を寄せていた背景には、地場大手がランクされるB等級が応札するB等級工事件数はC等級に比べ約20分の1しかないことが大きな理由。

国交省直轄の06年度一般土木(港湾空港関係除く)で、B等級工事の一般競争入札でB等級企業の入札参加者数1213者に対し件数は165件。

これに対しC等級工事とC等級企業の関係は2万1466者に対し2522件。指名競争入札を加えれば3186件まで拡大する。

単純な入札参加者数と件数の割合比率はB等級とC等級であまり変わらない。にもかかわらず地場企業が望まないランクアップに強い懸念を抱く。

B等級工事・企業は地場大手に加え中堅全国ゼネコンも加わる。B等級工事は1地方整備局で考えれば年間約20件にも満たない。同時に、地場大手はあくまで県内工事が主力のため、応札案件はさらに絞られる。

一方、C等級工事は件数も格段に多いうえに、同じ地場企業同士の競争のため、受注可否の判断もしやすい。

さらに、「この数年来、B等級工事相当のものを分割してC等級工事にしたり、逆にB等級工事がいないため、離れた地域の工事を一括してB等級工事として発注するケースもある」(ある地域の業界関係者)ほか、地域ごとに見ればB等級工事の市場そのものが少ない上、「発注の多くは全国ゼネコンが受注する」ことが、C等級企業のランクアップ意欲をそぐ要因にもなっていた。

ただ国交省は一方で、技術力のある地場企業の競争参加を促す目的で、等級外の工事にも参加できる食い上がりなどランクの弾力化を進めており、希望どおりにC等級にとどまっても競争が激化することには変わりはない。

[>>主要記事1へ](#)

[戻る](#)

[会社概要](#)

[お問い合わせ](#)

[広告のお問い合わせ](#)

[お読みください](#)

当サイトはNetscape7.0以上、Internet Explorer6.0以上で動作確認をしています。

すべての著作権は株式会社日刊建設通信新聞社に帰属します。
Copyright (c)2000-2008 The Kensetsutsushin Shimbun Corporation.